

令和7年度 神奈川県立大師高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和8年3月上旬

方法 書面開催（各委員に資料を郵送し、意見を集約）

参加者 [委員]

加藤 孝夫委員 高橋 智子委員 鈴木 伸哉委員 鈴木 健委員 佐藤 正信委員
竹之内 英委員 熊木 節子委員

[学校側（事務局）]

校長（副会長） 副校長 教頭 事務長 中村総括教諭 菅原総括教諭
松矢総括教諭 佐々木総括教諭 新澤教諭 山下総括教諭

※令和7年度学校評価報告書の校内評価について、次の（1）～（5）について、委員の方々からの意見等を集約した。（主な意見を記載）

（1）「教育課程・学習指導」について

（委員）ICTを活用した学びに積極的に取り組んでおり、今後さらに充実していくことを期待する。また、ICTの活用を進めていく中で、生徒の学びにどのような効果をもたらしたのかを検討することで、より効果的な活用を展開できると思う。

（委員）授業見学の機会があったが、ICT機器を活用しながら生徒との対話を取り入れた、わかりやすい授業づくりに努めている様子がみられた。今後も教員同士の授業見学や意見交換を通して実践事例を共有化し、学習の定着につながることを期待する。

（委員）評価は定量的にできるようにしてほしい。今後もICTを活用した授業を継続してほしい。

（委員）多様なバックグラウンドを持っている生徒の指導を粘り強く頑張してほしい。

（2）「生徒指導・支援」について

（委員）先生方がとても丁寧に生徒に接していることを、学校見学や先生方との意見交換を通じて強く感じた。また、支援が必要な生徒に対してカウンセラーと連携した取り組みを行っているなど、教育相談面でも充実していると思う。

（委員）学校行事後のアンケート結果から、生徒が主体的に行動する力が育まれてきていると感じた。現在の取組の方向性は適切であると考えている。課題として挙げられている主体的な行動を促すための目標設定や環境整備に引き続き取り組んでほしい。これらの取組みが「大師高校の魅力は学校行事」という特色づくりにつながると思う。

（委員）今後も生徒たちの指導・支援をお願いしたい。

（委員）達成感や小さな成功体験の積み重ねが自信につながるので、手の届きそうな目標設定をしてほしい。

（3）「進路指導・支援」について

（委員）学園祭など、生徒が自ら関わることができる機会を意識して設定されているところは、キャリア教育においても重要なポイントだと思う。目の前のことに精一杯な生徒も多い中で、先の見通しを持たせることに苦労されているのではないかと感じる。

（委員）生徒の中には、学習意欲や学力がありながらも経済的な事情により進学を断念するケースがあると思う。上級学校によっては、高校3年次に奨学金の予約を申し込むことで進学辞退を防ぐことができる制度もある。こうした制度を有効に活用できるよう、奨学金に関する情報提供や周知の充実を図るべきである。

(委員) 大変だとは思いますが、根気よく続けてほしい。

(委員) AIの進化により、高卒が大卒を凌駕する職種が今後増えてくる。特に、建築や設備関係の仕事は希少性の高い職種となる。自分のスキルを確立すれば起業も可能である。誰にでもチャンスがあり、スキルを習得するまでは我慢が必要である。

(4) 地域等との協同

(委員) 外国につながるのある生徒に対する指導にとっても熱心に取り組んでいると感じる。一方で、地域とのつながりについては具体的な活動等をあまり知ることができなかつたので、次年度以降は取り組みを積極的に発信してほしい。

(委員) 学校公式インスタグラムを通じて文化祭の案内や準備の様子が発信されており、「大師高校の魅力は学校行事」という目標に向けた外部発信の取組は大いに評価できる。今後もSNSを活用し、学校生活の様子を積極的に発信することで、「楽しそうな学校」「見てみたい学校」と感じてもらえるような印象を与え続けてほしい。

(委員) 地域との共同はなかなか難しいものである。町内会のお祭りや盆踊りに参加するとよいのだが地元の子がいて引っ張ってくれるとよい。PTAスポーツ大会にグラウンドの利用許可をしていることは良い。

(委員) 笑顔溢れる生徒や生き活きとした眼差しといった表情をホームページに活用するとよい。「何となく楽しそうだ」が一番である。

(5) 学校管理・学校運営

(委員) 多様な支援ニーズがあり、一人ひとりに時間をかけた指導が必要である。そうした意味でも、学校のニーズに合わせて、ある程度自由に使える(使用目的を学校で設定できる)予算がどの程度あるのかが気になる。予算(お金)でなくても、教員、SC、SSWなどの人員の加配でもよいかと思う。このように、学校の特徴に合わせた、より柔軟な体制を検討することで、それぞれの高校の特色がより出しやすくなるを考える。これは学校への要望ではなく、県への要望である。

(委員) 防災マニュアルの作成・共有や年2回の防災訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組は評価できる。このような地道な取組の継続が重要である。今後は課題の方策にある通り、地域にも広く発信し、地域の安心・安全に寄与することを期待する。

(委員) 教職員はよくやっている。大変であると思うが次年度以降も継続してほしい。

(委員) 大師高校の教職員の方々が生徒と和気あいあいと接することで十分である。進学校をめざすならば変わるが、大師高校らしさは社会に明るい生徒を送り出すことである。教職員の方々も気楽に考えてほしい。